

大阪女子学園短大 ○梶本 久代
増田 依子
川北貴美子

1. 最近多くの合成繊維が生まれ、これらの天然繊維との交織混紡品や染色物が数多く市場に出ている。これらを手に入して被服工作する場合に家庭で簡単に鑑別できることが望ましい。家庭で繊維を簡単に鑑別できる方法としては(a) 燃焼による方法 (b) 試薬に対する溶解性による方法 (c) 染色による方法の3つがあるが、今回は(c) について、その適用可能範囲をしらべる実験を行なった。

2. 染料としては第一工業製薬KK製のカラーファイン染料を用い染色条件は濃度 0.5% 温度 75°C 時間 5 分浴比10倍で行なった。

3. 白色布の場合は木綿：赤色，羊毛：みるあい色，レーヨン：べんがら色，ベンベルグ：えび茶，ナイロン：うぐいす色，アロン：山吹色，アセテート：黄蘗色，テترون：さび青磁，ハイポラン：紅えび茶，ビニロン：金茶色に染色され鑑別は一応肉眼で可能である。つぎに交織混紡品は染色が同系統の色や片方の色が非常にうすい場合は鑑別しにくい場合が多い。また染色布については一般に鑑別困難な場合が多かったが呈色反応が濃色にあらわれる繊維の場合は染色布が濃色であっても鑑別しやすい場合が多かった。日東紡製ダンセットのような樹脂加工布は全然呈色せず鑑別は全く不可能であった。以上の実験から本法だけでは種々の市販の繊維の完全な鑑別は不可能で(a) や (b) を併用しなければならないことがわかった。